

衛生試驗所沿革史

内務省衛生試驗所

国立公衆衛生院附属図書館



00016875

国立公衆衛生院附属図書館	
受入先	松浦十四郎先生寄贈
受入日	'98. 3. 10
登録番号	72557
所在	
Library, National Institute of Public Health	

緒言

衛生試験所は明治七年司薬場として創設せられてより以來正に六十三年の星霜を閲し明治二十年衛生試験所と改稱せられてより本年を以て滿五十年に達せり。

抑々衛生試験所は其草創當初に於ては専ら賡造藥品の検査及取締に任じ後年薬局方制定の基礎を築き薬局方公布以後に於ては薬局方藥品の依頼試験に應じ本邦醫藥品の純度の向上薬局方規準の維持等薬局方の實際的運用の衝に當り又大正三年歐洲大戰勃發し醫藥品の輸入杜絶を見るや未だ本邦にて製造せられざる多數醫藥品の製造法を研究發表し以て民間製薬工業を指導し醫藥品缺乏による治療上の危機を未然に防止せり。大正十年製薬部官制成り同十一年薬用植物部新設せられ昨年八月阿片アルカロイド製造に従事する職員を設置し目黒に分場を開設せり。

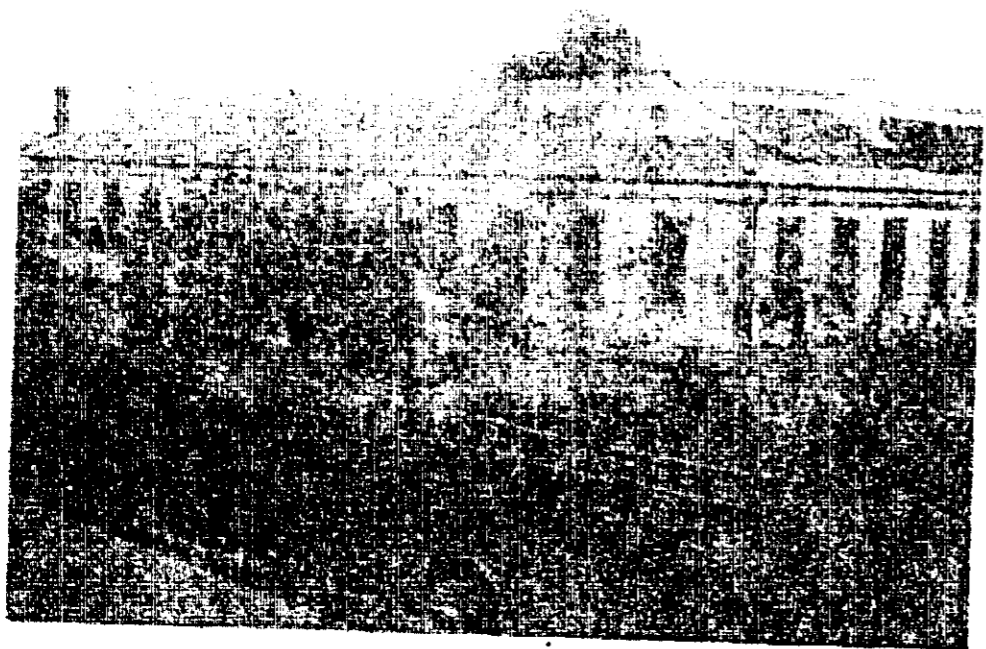
飲食物、飲料水、鑛泉其他國民の生活に最も緊密なる各般の衛生事項に就ても夙に明治十五年以來之れが調査研究に従事し同十九年主要食品百六十餘種の分析を完成し次で食饌竝に保健食料の調査を行ひ以て本邦人に適合すべき保健標準食料を選定し更に明治三十七年特に調査部を設け衣食住各般に亘る衛生上の調査研究に著手し明治四十二年本邦食品分析表を完成し爾來飲食物、著色料、防腐劑其他都市の空氣汚染度及療養地の適否等の如き衛生上の諸問題に就き調査研究發表せる業績枚擧に遑あらず。是等の研究は檢明部及藥劑部に於ける依頼試験の受理と共に國民の保健に資し衛生思想の喚起に貢献せる處甚だ多きを信ず。

今や内外重大の事局に際し國力の進展上保健衛生施設の完備は愈々緊要の度を加へんとす此秋に當り衛生試験所事業の沿革を考査収録し以て將來の發展に資すると共に益々奮勵努力國家社會の爲め寄與せんことを期す之れ本編を刊行せる所以なり。

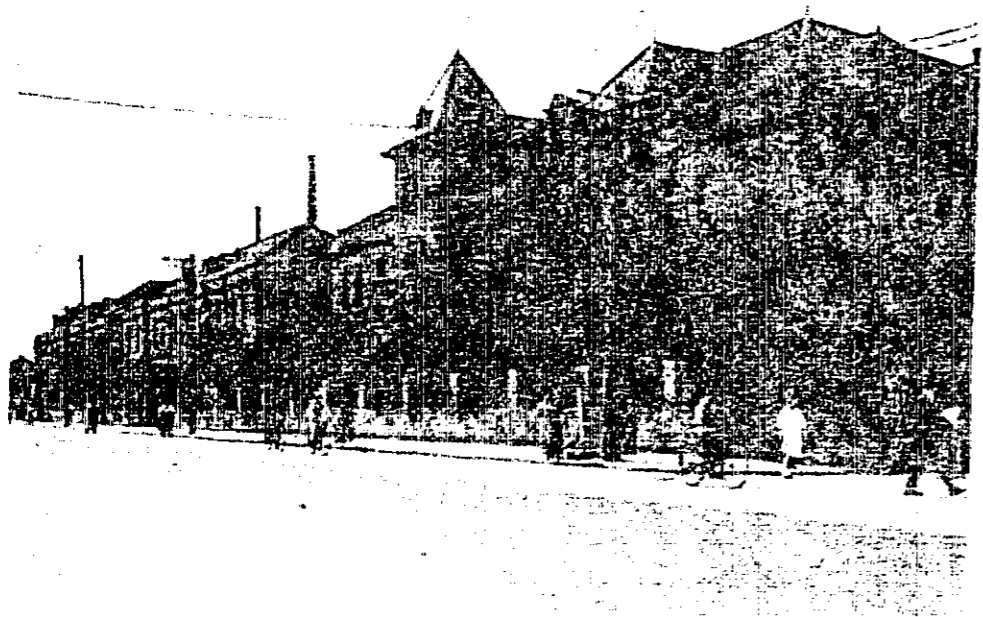
本編の編輯は主として刈米達夫、服部安藏、藤本磯男の三君之を擔當せり。

昭和十二年三月

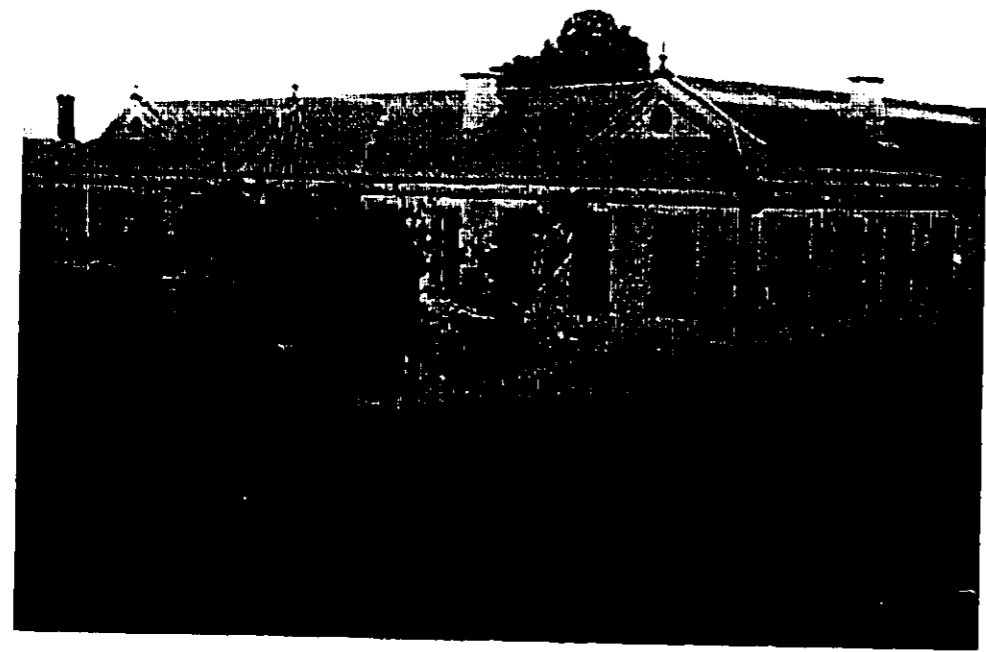
内務省東京衛生試験所長 衣 笠 豊



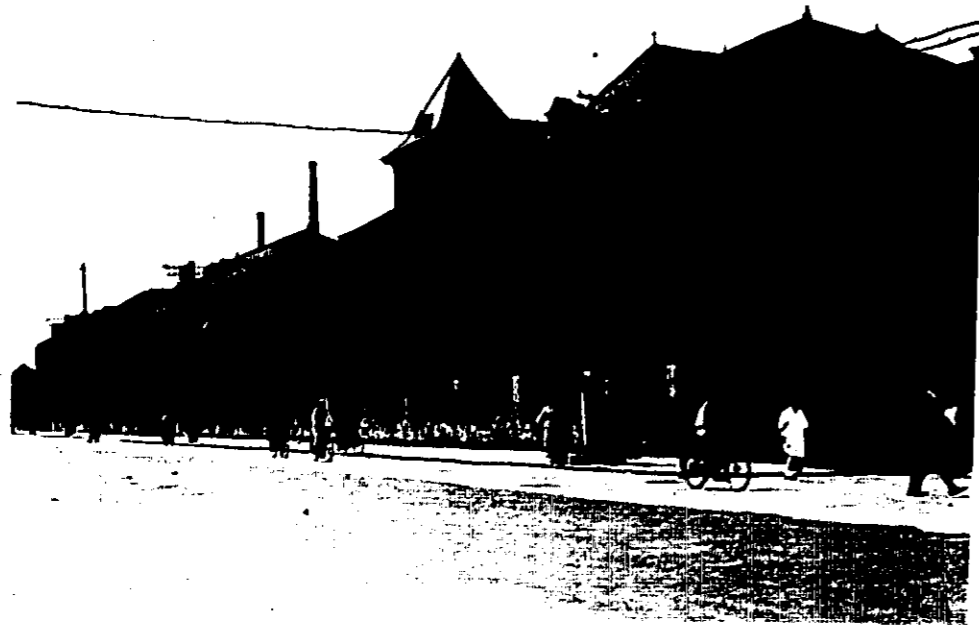
東京衛生試験所舊舎
(東京市神田區東區)
(明治二十四年三月に在りて)



東京衛生試験所現舎
(明治二十四年三月に在りて)



東京衛生試験所舊舎
 (東京市神田區泉町在所)
 (創立當時より明治四十二年三月に至る)

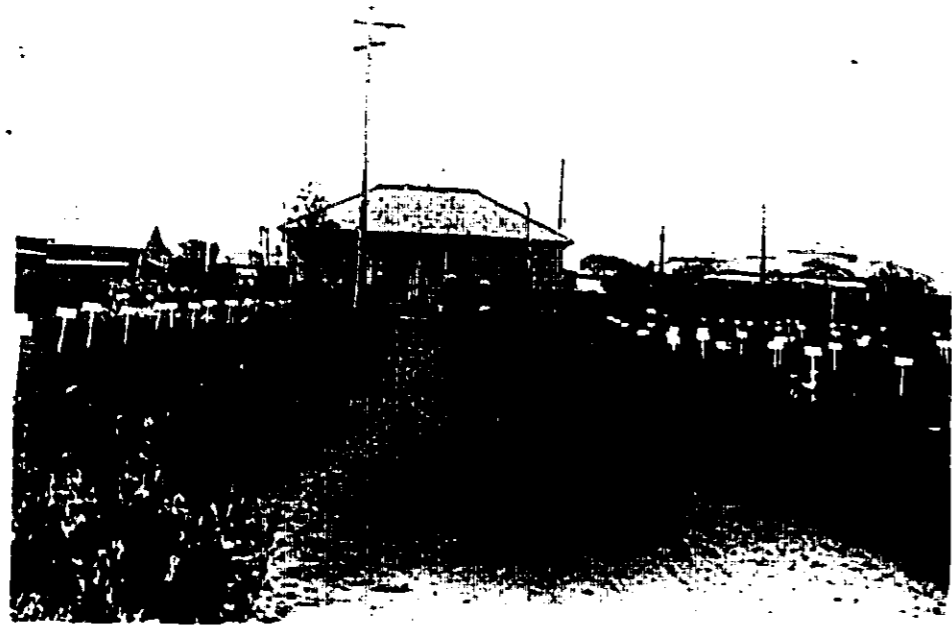


東京衛生試験所現舎
 (明治四十二年より現存に至る)

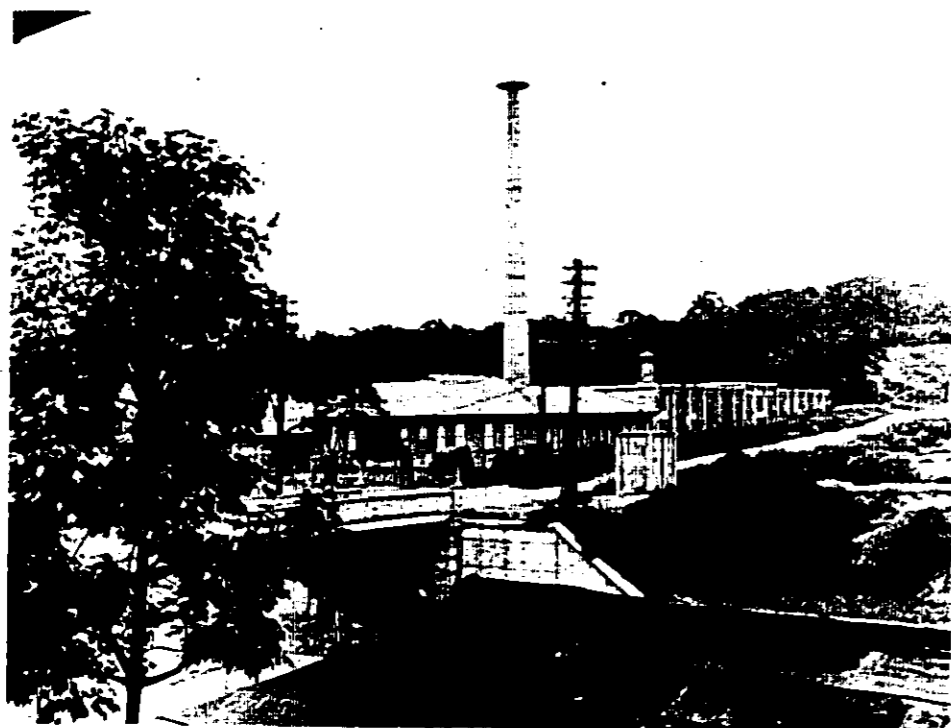
...の爲に各省の官廳に際して國の衛生事業の進歩に必要と認められたる衛生試験所を設け、其の重要の度を加へんとす此秋に當り衛生試験所を東京市神田區泉町に新築せしむこととなり、舊所は現存せしむる所以なり。

明治二十二年三月

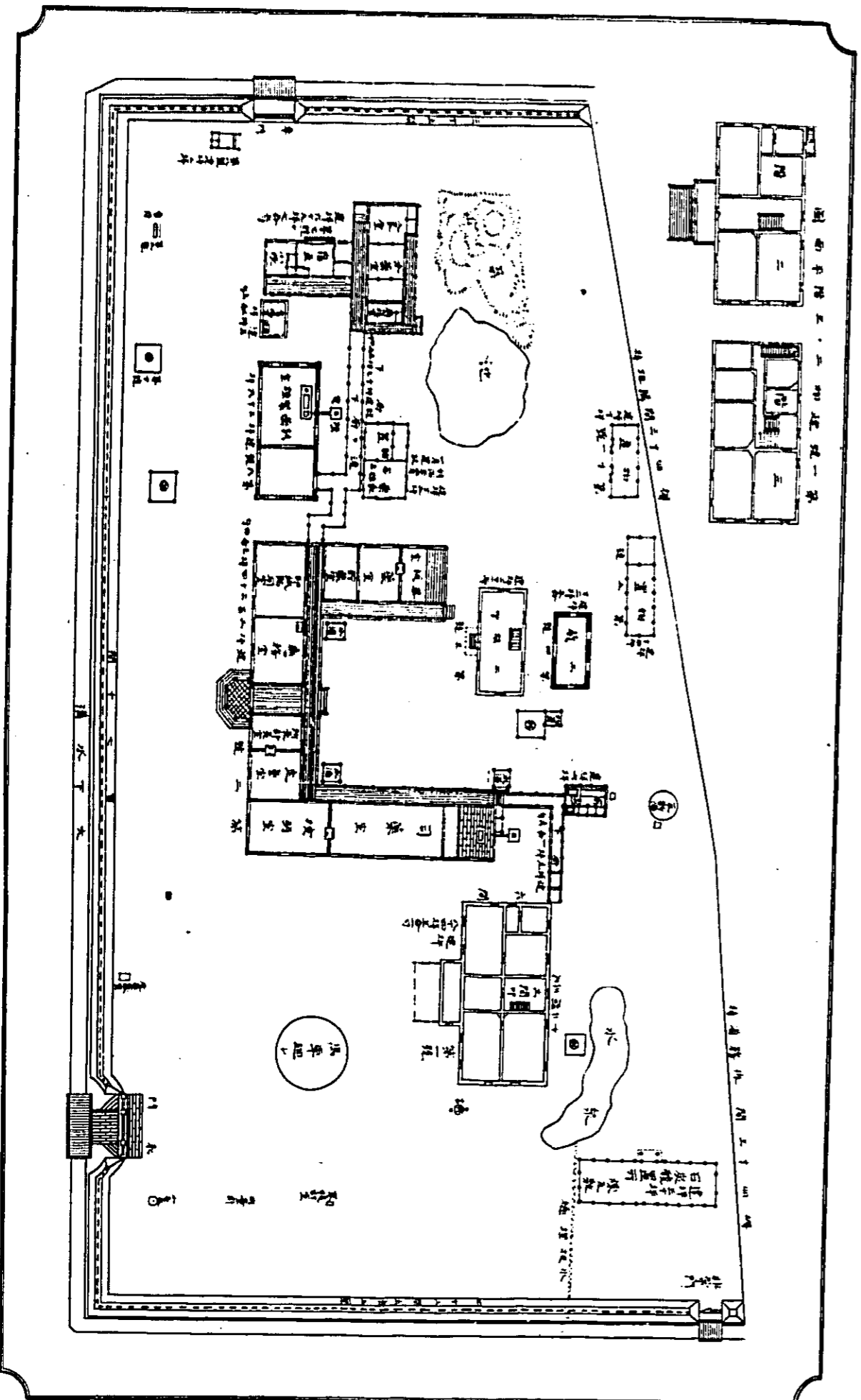
内務省東京衛生試験所長 衣笠 操



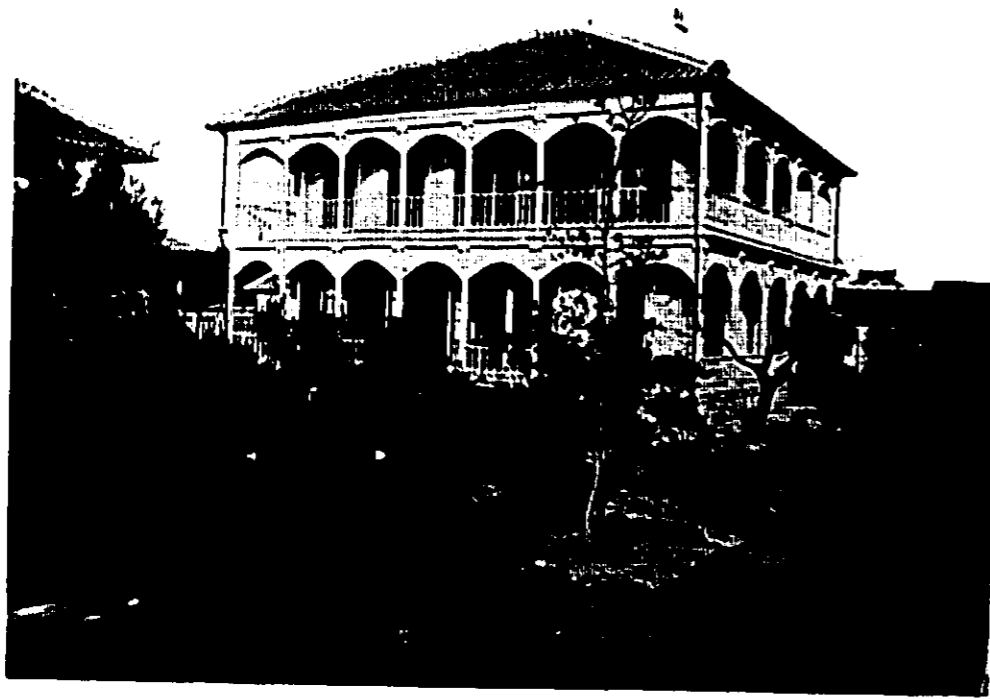
場圃栽培物植用藥所驗試生衛京東
(在所町壁粕縣玉埼)



場分所驗試生衛京東
(在所地番十百三目丁二黒日中區黒目市京東)



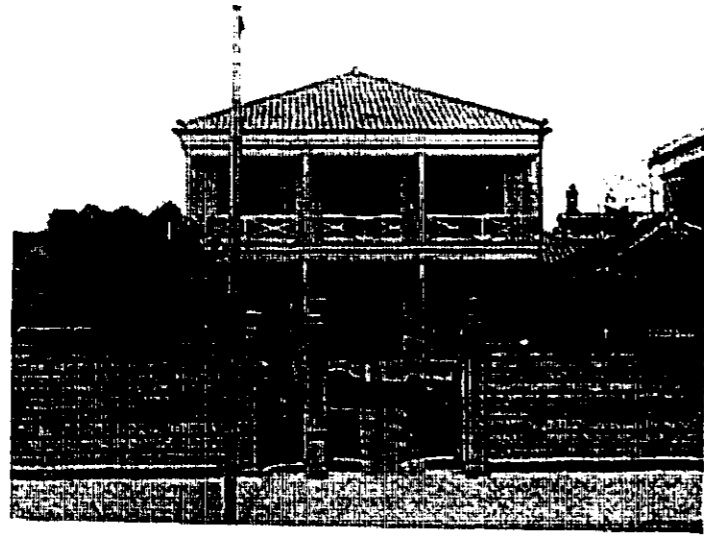
東京衛生試験所畜産舎面圖
 (東京畜産試験所畜舎面圖のたのり)



大 阪 大 学 薬 場 舊 廳 舍
(在大阪市北區中之島一丁目)
(明治三十一年一月至明治三十三年一月)

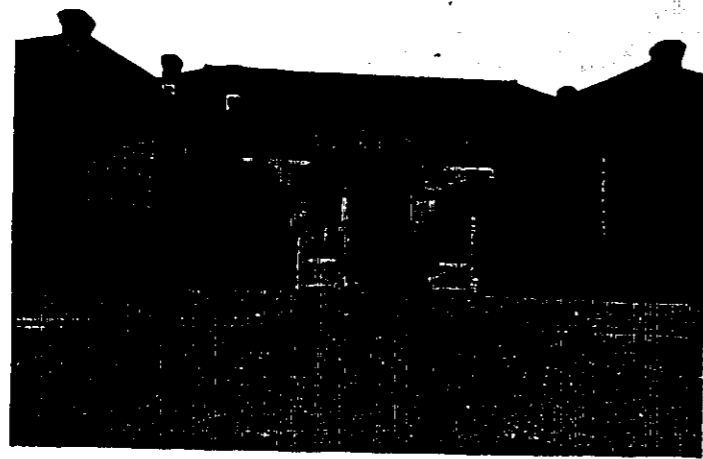


大 阪 大 学 衛 生 試 驗 所 現 廳 舍
(在大阪市東區京橋三丁目)
(明治三十一年一月至現在)



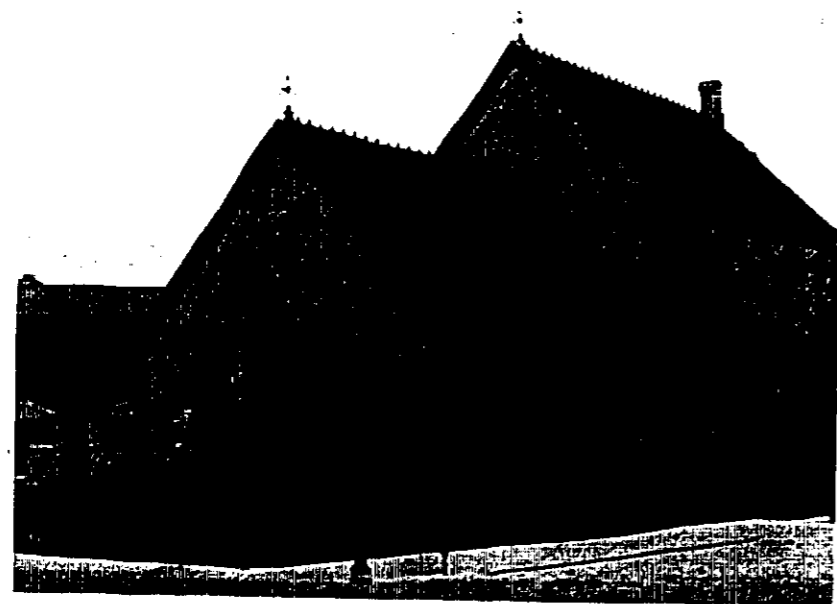
横濱 藥司 場 廳 舍

(在 所 市 北 仲 通 舊 國 領 事 館 跡)
(明 治 十 五 年 五 月 一 日 治 明 七 十 年 五 月 至 五 年)



横濱 衛 生 試 驗 所 廳 舍

(在 所 市 北 仲 通 五 丁 目 所 在)
(明 治 十 七 年 五 月 改 築 明 治 二 十 一 年 一 月 至 五 年)



横濱 衛 生 試 驗 所 廳 舍

(在 所 市 本 町 五 丁 目 所 在)
(明 治 十 二 年 五 月 一 日 大 正 二 年 一 月 至 五 年)



平新藤後
(代五第)



桂承田柴
(代二第)



義長非長
(代六第)



輔精岡辻
(代四第)

長所驗試生衛京東



西崎弘太郎
(代九第)



中濱東一郎
(代七第)



衣笠 豊
(在 現)

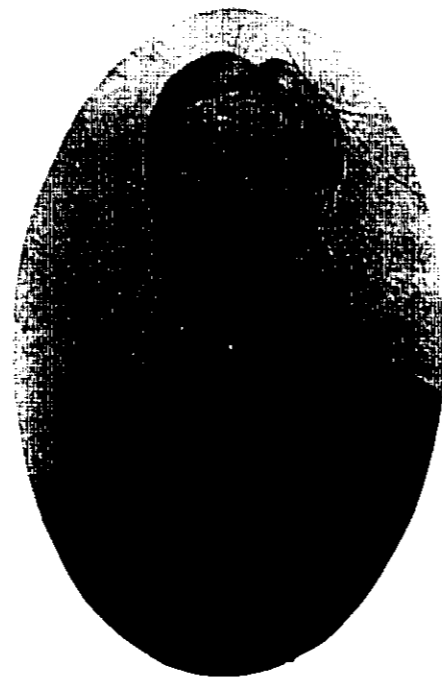


田原良純
(代八第)

東京衛生試験所長



一 耕田島
(代六第)



郎次橋村
(代四第)



治松山平
(代八第)



三英口町
(在 現)

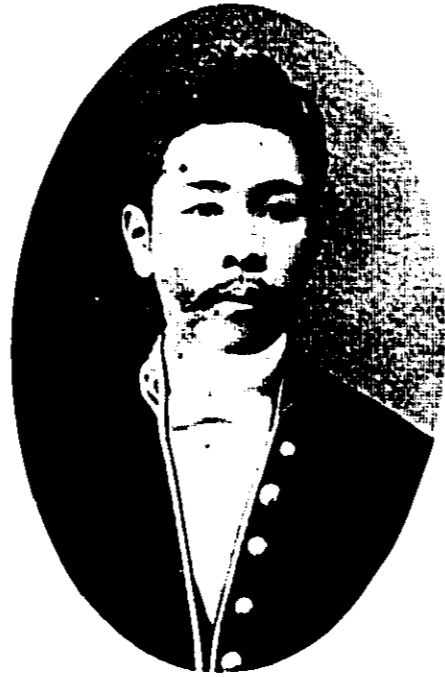


太平小井櫻
(代五第)

長所驗試生衛阪大



A. J. C. Geerts



堀之鉞 丞
(代三第)



J. F. Eijkman



齋藤 寛 猛
(代五第)

横濱衛生試験所長及外人教師

第一編 司藥場時代

目次

維新前後の醫藥品取締……………	一頁
東京司藥場の開設(明治七年三月)……………	一〇
贋藥の横行と取締令の發布(明治七年十二月)……………	一一
藥品巡視の起源(明治七年十一月)……………	一七
劇毒藥取締令の發布(明治九年九月)……………	一七
明治初年の藥學教育と藥師開業者養成案(明治七年九月)……………	二〇
京都司藥場の開設(明治八年二月)……………	二一
鑛泉分析の開始(明治七年六月)……………	二一
大阪司藥場の開設(明治八年三月)……………	二五
司藥場用印紙の統一と其變遷(明治八年—明治十八年)……………	二七
各府縣より植物及鑛物の蒐集(明治八年三月)……………	三一
ボードカリの製法傳授(明治八年四月)……………	三一
東京司藥場に外人教師一名増員に關する具申(明治八年一月)……………	三三
司藥場の内務省移管(明治八年七月)……………	三三
司藥場協定試驗法の制定(明治八年十月)……………	三三
司藥場試驗心得並に藥局試驗法の制定(明治八年十月)……………	三五

贗惡藥品取締規則(明治九年三月)……………三九
 藥舖開業者の資格制定及第一回藥舖開業試驗(明治八年十二月)……………四〇
 藥名の統一(明治八年)……………四四
 藥名箋に和名の併記(明治八年)……………四五
 マルチンの解職とブリュへの備聘(明治九年七月)……………四五
 司藥場試驗師の制定(明治九年四月)……………四六
 司藥場の事務規定に關する達(明治九年十二月)……………四六
 京都司藥場廢止と横濱及長崎司藥場の開設(明治九年八月)……………四七
 依頼試驗手数料徵收手續の制定(明治九年八月)……………四七
 製藥免許手續の制定(明治九年五月)……………四九
 明治十年の虎疫大流行と石炭酸の製造(明治十年十月)……………五〇
 告示箋其他規則の制定(明治十年一月—十月)……………五一
 試驗師に突任判任及等外の階級制定(明治十年四月)……………五三
 製藥學教場の廢止(明治十年六月)……………五三
 ゲールツの上申書と試驗拒否藥品の制定(明治十年六月)……………五四
 佛國より藥草種子の輸入(明治十年七月)……………五六
 飲料水及凍氷等に對し衛生的注意喚起(明治十一年九月)……………五七
 外國藥局方製劑に注意喚起(明治十一年七月)……………六一
 例則内藥品試驗法の追加(明治十一年二月)……………六一
 藥品試驗に就き各司藥場に達せられたる注意書(明治十一年四月)……………六一

大阪及長崎司藥場條令の改正(明治十二年二月)……………六一
 東京司藥場に和漢藥物調査會の設置(明治十二年九月)……………六三
 司藥場員の衛生學聽講(明治十二年)……………六三
 内務省東京司藥場に酒精劑の調査を命ず……………六四
 藥品製造試驗法の傳習(明治十二年)……………六四
 京都府藥物検査場設立の請願(明治十二年二月)……………六四
 藥品取扱規則の制定(明治十三年一月)……………六五
 長崎司藥場の廢止(明治十四年七月)……………六七
 依頼試驗の制限(明治十四年十一月)……………六八
 司藥場の事務外人教師の手を離る(明治十四年一月)……………六八
 衛生事務擴張に關する達(明治十五年二月)……………六八
 東京司藥場に於て食料品の調査開始(明治十五年)……………六八
 藥品検査告示箋の改正(明治十四年七月)……………六八

第二編 衛生局試驗所時代

司藥場の改稱及處務權限並章程の改訂(明治十六年五月)……………六九
 検査印紙告示箋等の改正(明治十六年五月)……………七一
 藥品試驗所の新設(明治十六年五月)……………七一
 全國鐵泉調査着手(明治十六年七月)……………七一
 官印制定(明治十六年十二月)……………七三

藥品取扱規則第二條但書中改正(明治十七年九月).....	七三
依頼試験制限令の廢止(明治十七年九月).....	七七
藥品検査告示箋に關する規定の改正(明治十七年十月).....	七七
藥品出張試験所の設定(明治十七年十二月).....	八〇
藥品試製所及藥草試植園東京試驗所に合併(明治十八年九月).....	八一
河豚毒成分の研究開始(明治十八年).....	八一
藥品試製所の廢止(明治十九年).....	八一
處務權限並章程の改訂と衛生參考館新設(明治十九年三月).....	八一
第一版日本藥局方の公布(明治十九年六月).....	八三
藥品取扱方之儀に付伺(明治十九年十月).....	八三

第三編 衛生試驗所時代

衛生試驗所官制の公布(明治二十年五月).....	八四
藥草栽培の指導(明治二十年十一月).....	八五
検査印紙貼付様式及告示箋の改正(明治二十年六月).....	八五
横濱衛生試驗所の移轉新築(明治二十一年五月).....	八六
藥品營業並藥品取扱規則の發布(明治二十二年).....	八六
藥草試植園の文部省移管(明治二十三年一月).....	八七
検査印紙貼付規定の改正(明治二十三年三月).....	八七
衛生試驗所官制の改正(明治二十三年八月).....	八七

藥品検査其他手数料に關する規定の改正(明治二十四年一月).....	八八
大阪衛生試驗所の新築移轉(明治三十年十二月).....	八九
藥品の封緘並藥品飲食物等の検査營業者取締令の公布(明治三十年三月).....	八九
輸入藥品の調査(明治三十三年九月).....	八九
外國特許名藥品の印紙貼付に付照合(明治三十四年十一月).....	九〇
試験手数料に關する規定の改正(明治三十四年六月).....	九一
増員に關する上申書(明治三十五年四月).....	九三
東京衛生試驗所内に藥品小分場新設(明治三十六年).....	九四
東京衛生試驗所に調査部新設(明治三十七年六月).....	九四
検査印紙の改正(明治三十九年二月).....	九五
東京衛生試驗所廳舎修築に關する上申書(明治三十九年).....	九六
藥品小分官營開始と事務分課の改正(明治四十一年四月).....	九六
衛生試験彙報續刊(明治四十二年三月).....	九八
東京衛生試験所本館新築(明治四十二年三月).....	九九
ドレムデン萬國衛生博覽會に出品(明治四十四年).....	一〇〇
毒物河豚毒素調査として經常費中に五千圓増額(明治四十五年).....	一〇〇
鎌泉試験依頼者心得書の改正(大正元年十月).....	一〇一
横濱衛生試験所の廢止(大正二年六月).....	一〇一
依頼藥品代頭人設置(大正二年十月).....	一〇一
大阪衛生試験所の増修築(大正二年三月).....	一〇二

本邦鍍泉中ラヂウムニマナチオン含量の調査開始(大正二年)	一〇二
藥品製造試験部の新設(大正三年八月)	一〇三
臨時職員増置と其分配(大正七年十二月)	一〇七
東京衛生試験所の増改築(大正五年—大正十一年)	一〇八
東京衛生試験所調査部擴張に依る増員(大正十年五月)	一〇九
薬用植物栽培試験部及圃場の新設(大正七年三月)	一〇九
大震災と東京衛生試験所(大正十二年九月)	一〇九
毒物學的試験開始に作ふ増員(昭和九年)	一一〇
痲瘋防協會の委嘱に依る大風子油の製造開始(昭和六年十二月)	一一〇
燐酸コデインの製造と目黒分工場の増設(昭和六年—昭和十一年)	一一一
阿片アルカロイド鹽酸鹽製造開始(昭和七年)	一一二
鹽酸エチルモルヒネ製造開始(昭和十一年)	一一二
燐酸コデイン製造及薬用植物栽培試験の擴張に伴ふ増員(昭和十一年八月)	一一二
衛生試験所官制の改正(昭和十一年八月)	一一二

第四編 衛生試験所と阿片關係事項

明治維新以前の阿片取締	一一三
明治初年の阿片取締(明治元年四月)	一一四
國産阿片改良に關する上申(明治八年三月)	一一五
阿片栽培に關する注意書及阿片試験成績の公告(明治八年—十年)	一一七

司藥場よりモルヒネ定量法の上申(明治八年七月)	一二〇
醫務局より司藥場に對する薬用阿片と阿片煙との辨別に關する疑義照會(明治八年四月)	一二〇
薬用阿片賣買並製造規則の發布(明治十一年八月)	一二一
阿片賣渡定價の制定(明治十一年十一月)	一二五
阿片試験並買上取扱心得の制定(明治十一年十一月)	一二五
薬用阿片輸入當時の事情を示す文書(明治十一年十一月)	一二六
在留外人に對し和洋兩文を以て阿片賣渡規則の告知(明治十一年十月)	一二九
阿片試験並買上取扱手續に關する疑義照會(明治十二年二月)	一三二
阿片小賣價格に關する質疑應答(明治十二年五月)	一三二
阿片受拂手續統一(明治十二年三月)	一三三
東京司藥場にて罂粟の栽培(明治十二年)	一三五
阿片煙に關する罪を刑法に規定(明治十三年四月)	一三六
薬用阿片にモルヒネ含量の併記(明治十二年五月)	一三七
拂下薬用阿片の價格制定(明治十二年四月)	一三七
販賣阿片章標の改正(明治十三年一月)	一三七
販賣阿片に關する伺(明治十三年二月)	一三八
阿片販賣人並阿片製造人の鑑札制定(明治十三年三月)	一三八
阿片買上價格追補(明治十三年十二月)	一四〇
モルヒネ含量六分以下の阿片の買上停止(明治十八年十一月)	一四〇
外國人へ賣渡すべき乾燥阿片の價格規定(明治十九年三月)	一四〇

外國產濕潤阿片の抛下(明治十九年五月)……………一四〇

藥用阿片粉末の調製(明治十九年十二月)……………一四一

阿片賣買並製造規則中改正(明治二十年十月)……………一四二

藥用阿片のモルヒネ含量改正(明治二十年十月)……………一四三

阿片法の制定(明治三十年三月)……………一四三

阿片法施行規則の制定(明治三十年三月)……………一四三

阿片焼却手續の制定(明治三十年三月)……………一四五

阿片煙膏取調(明治三十年十月)……………一四五

阿片法に依る阿片賣下代價の收入印紙納入(明治三十二年三月)……………一四六

藥用阿片の事務を衛生試験所にて取扱ふ(明治四十二年三月)……………一四六

製藥用阿片賣下に關する省令(大正六年八月)……………一四七

製藥用阿片賣下に關する省令第一條に依る會社の指定(大正六年十月)……………一四七

製藥用阿片中のモルヒネ含量指定方の改正……………一四八

内務省主催にて罂粟栽培阿片採收講習會の開催(大正四年七月)……………一四八

醫藥用阿片買上及交付手續の制定(大正八年十月)……………一四八

沒收阿片類の處分(大正五年—昭和六年)……………一四九

醫藥用阿片試験及調製の大阪衛生試験所移管(大正十一年四月)……………一五二

阿片委員會官制の制定(昭和六年四月)……………一五二

阿片價格一覽表……………一五二

附 錄

衛生試験所年表……………一五四

衛生試験所職員表……………一六二

衛生試験所沿革史

第一編 司藥場時代

維新前後の醫藥品取締 徳川家康天下の政權を執り諸政漸く整備するに及び我國本草醫學も長足の進展を來し早くも慶安年間蘭人パスカル江戸に來りて西洋醫學を傳へたるも當時實際治療に應用せられたるは専ら漢方醫藥にして主として明より輸入せられ所謂唐藥と稱して外船により長崎其他九州の諸港より輸入せられたるものなり。

然るに外國との交通開け貿易隆昌となるに伴ひ外國の布教も亦次第に盛んとなり切支丹の教禁を犯すもの甚しく増加するに及び幕府は寛永十三年を以て鎖國の制を立て朱印船の渡航を停め大船の建造及人民の海外に航通するを禁止し僅に和蘭及明の商船のみ長崎に來りて貿易を爲す事を許可せり。爲めに洋藥輸入の途絶たれ幕府は草藥類自給の必要に迫られ寛永十五年江戸の麻布及大塚に藥園を開き和漢藥類の栽培研究の道を拓き洋藥は僅に蘭船によりて長崎を経て輸入せらるゝに過ぎざりき。然るに徳川中興の英主八代將軍吉宗蘭學の研究を奨励せしを以て西洋醫學漸く盛んとなり文政六年獨逸人シーボルト和蘭の醫官として長崎に來り西洋醫學を開講するや其研究熱勃然として全國に興り我國醫學史上劃期的進展を示せり。爲めに漢方醫の嫉視にあひ嘉永二年幕府は遂に和蘭醫術を禁止洋學の瀾漫を防退せんとしたるも大勢の赴くところを奈何ともし難く安政五年に至りて遂に解禁せしを以て再び西洋醫學の興隆を來たせり。

西洋醫學の發達につれて漸く洋藥輸入も激増し既に幕末に於ては水銀、辰砂、明礬、瀉利鹽、酒石、龍腦、セメンシーナ、サレブ、ナラバ、ローテキス、コロンボ、ヒヨシヤムス葉、ベラドンナ葉、キナ、カスカリルラ（藥品名は當時の文書に記す處に従ふ以後同じ）等の如き多種類の洋藥の輸入を見るに至りしかば幕府は屢々藥品の偽造品取締令を發布せり。

明治維新は我國政治萬般に亘りて一大革新を來し社會及國民生活上に驚異的變化を來せり而して維新幼々の時期に在りては内治外交上幾多の難問題在りて未だ醫藥衛生に關する法制の立案に著手するに迫なかりしが明治新政の規模漸く安定するに及び政府は先づ醫藥衛生法規制定

の前提として之が調査を開始せり。即ち明治四年十一月岩倉右大臣大使として歐米各國に差遣せらるゝに當り文部少丞長與專齊其一行に加へられ各國の醫藥衛生の調査に當り超へて六年大使一行歸朝するや三月文部省内に醫務局を設け新たに歸朝せる長與專齊を其局長として醫藥衛生の事務を總べしむ。當時我國の現状は領國の舊習を破りて年猶新にして西洋の文物頻りに輸入せらるゝに至れりと雖も一般に藥品に關する智識淺薄にして其眞偽を鑑別する能はず偽和假造の藥品世上に横行し其弊害甚しかりしを以て外務少輔上野景範は之れが取締に關し政府に上申書を提出し文部省内に司藥局設置の端緒を拓けり。この間の消息を示す文書次の如し。

英劑者人命之關スル處能々其眞偽ヲ審選セザル時ハ之ガ爲メ非命ノ夭傷ヲ不免候間最能ク注意シ其稱實ヲ鑑識セザルヲ不得然ルニ歐米各國ノ所産其品種廣製偽造不測哉ノ處藥局爭テ價廉ノ品ヲ好ミテ其精質ヲ審ニセザルヨリ遂ニ天壽ヲ失スルノ災ヲ買得ルニ至ル趣誠ニ浩歎スベキノ儀ニテ畢竟諸港輸入ノ際其精製製造ヲ審檢セザルノ故ニ有之此儀ニ付テハ余ヲ松本軍醫頭モ深ク焦慮痛心繼在候由右ハ萬民愛護ノ御主意ニ付早々御商議ノ上藥劑輸入ノ御規則御設定相成度此段申進候也。

明治六年三月二十五日

正院御中

外務少輔 上野景範

藥劑取締之儀ニ付外務省ヨリ別紙ノ通申出候就テハ昨年十一月申出置有之候間司藥局創立之儀早々取調可差出候也

明治六年三月二十八日

正院

大木文部卿殿

是れより先き各税關に於ても亦外國より輸入せらるゝ假造藥品取締りの必要を認め次の如き上申書を提出せり。

外國商人共假造藥品輸入取締方之儀長崎港居留商フアンテ・ボル・ヨリ同所稅關ニ正、假造藥品相添別紙一號之通申立候ニ付第六大學區醫學校ニ於テ同氏ヨリ差出候藥品兩種試驗爲致候處二號之通申立有幾那羅ノミニ限ラズ其他許多之藥品假物輸入之趣右者人命ニ關シ不尠易事ニ付深ク憂ニ爲致候一體藥品試驗等之儀者御省御精相成可然哉ト被存候間取締之方法至急御取置有之度依テ長崎港稅關ヨリ差出候書類相添此段及御掛合候也

二月二十七日

井上大藏大輔

大木文部卿殿

一、余幾那羅貳瓶ヲ檢査セシニ巴里製假紙ノ銘書アルモノハ非常ノ惡品ニシテ硫酸幾那羅ニ換ユルニ硫酸シニコニーネヲ以テシ之ニ音僅少ノ幾那羅ヲ混合スルノミ硫酸シニコニーネヲ賦熱ニ用ユルヤ其効能硫酸幾那羅ニ甚ク劣レリ故ニ賣買ノ價甚ク廉ニシテ藥劑ニ用ユルコトモ亦少シ

一、荷蘭或ハ獨逸等ニ於テ如斯假造ノ幾那羅ヲ患病者ニ販賣スルモノハ之ヲ罰責ス

一、倫敦製白紙ノ銘書アルモノハ上品ニシテ假造ニアラス

一、是並英、佛兩國ヨリ日本ニ輸入セシ幾多ノ藥品ヲ屢檢査セシニ詐偽ノ者不尠則ヨドボツタス等之ナリ此藥品ハ正眞ノモノニアラス全ク「ブルームボツタス」ヲ以テ偽製セリ因テ日本ニ於テモ亦方法ヲ設ケ粗惡或ハ偽製ノ藥品ヲ販賣スルモノハ嚴科ニ處シ以テ患病者ノ狀罔且危害ヲ蒙ルコトナカラシメンコト余カ冀望スル處ナリ

一、常人ハ自己ノ病ニ用ユル藥劑ノ善惡ヲ辨別スルコト難ケレハ藥店ニ於テ假造或ハ粗惡ノ藥品ヲ販賣セサルコトヲ余カ希望ノ通成ヘク政府ニ於テ盡力セサルヲ得ス

一、英米(且此兩國ニ於テハ藥品ヲ賣買スルニ甚ク不注意ナリ)兩國ヲ除ク外歐洲各國ニ於テハ分析掛ノ官員ヲシテ市街ノ諸藥店ヲ檢査セシメ各店ニ貯藏スル藥品ノ善惡ヲ政府ニ報告セシム故ニ藥品ヲ販賣フモノ罰責ヲ怖レ自ラ上品ヲ販賣シ從テ患病者モ粗惡ノ品ヲ服用スルノ患ナシ因テ日本藥店ニモ亦如此取締アリ度キナリ

一、政府ニ於テ前條ノ勸告ヲ採用シ日本國民ノ健康ヲ成ヘク保護セシムルノ意アラハ長崎又ハ其他ノ場所ニ於テ用ユル藥品ヲ檢査スルコトハ余ニ於テ辭セサル所也

長崎千八百七拾三年第一月二十七日

日本政府御備理及分析學教師

ア・ゲ・セ・ゲールツ 敬白

長崎縣廳士官衆

堀一等譯官 通譯

明治六年一月三十一日

以上の如く政府部内に於て假造藥品取締の必要益々急ならんとするに際し輸出入業者の間に於ても之が取締方要望の聲興り明治六年二月四日アル・フアンテ・ボルは長崎稅關長官宛次の如き意見書を提出せり。

一、貴國商人幾那羅英國量目一オンス、洋銀七拾五セントヲ以テ拙者ニ可賣渡旨及相談候處拙者幾那羅一瓶英國量目一オンス入百瓶程一ヶ年以來賣捌方心掛居候得共歐羅巴洲ヨリ當港ニ向ケ持渡候品ハ一オンスニ付代價洋銀二弗ニ相當候處當港ニテハ右相場下落ニ付度々歐羅巴ニ右相場爲問合置候處貴國ノ由ニ候間下直ニ賣捌候段決定候處在候其後漸ク沸騰方今ニ至リ右品一オンスニ付洋銀二弗容ニテ貴國へ持渡候者有之間數候間貴國商人所持ノ幾那羅見本トシテ相渡候儀及相談右品相改申度就テハ御同意被下候様相願候左候ハ、符調札ノ通全ク幾那羅ニ無之候段顯明可致候

一、拙者陳述致シ候幾那羅見本千瓶程輸入シ貴國民へ賣買候付右ニテ幾那羅ノ闕乏ヲ補ヒ可申ニ付拙者所有ノ幾那羅ハ正品ニ有之一瓶ニテモ右偽品ノ爲損耗相立候テハ不相成候間更ニ賣捌出來問數候右偽品ノ儀御處置無之テハ正品トシテ賣捌難出來候

一、幾那羅ノ儀ハ患者ノ回復相談候爲メ藥劑ニ有之候處右見本ノ偽製幾那羅服用ノモノト何等ノ驗効相願候哉患者本復可致管ノ處其爲却テ落命致候モノハ無